

個人投資家様向け会社説明会

“天然ガス新市場の創造と開拓“

東京ガス株式会社

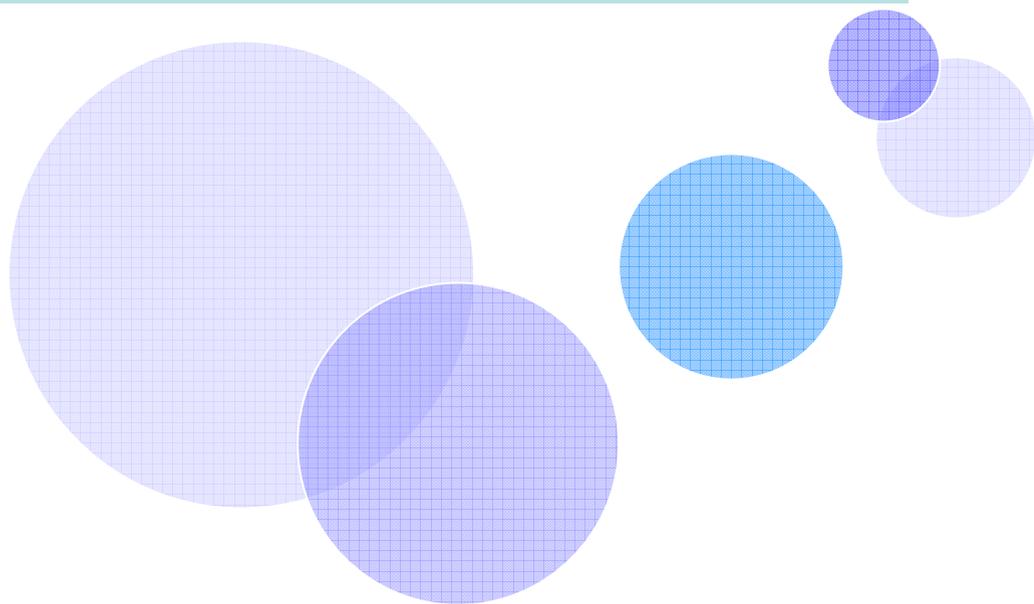
2006年6月3日、4日

見通しに関する注意事項

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

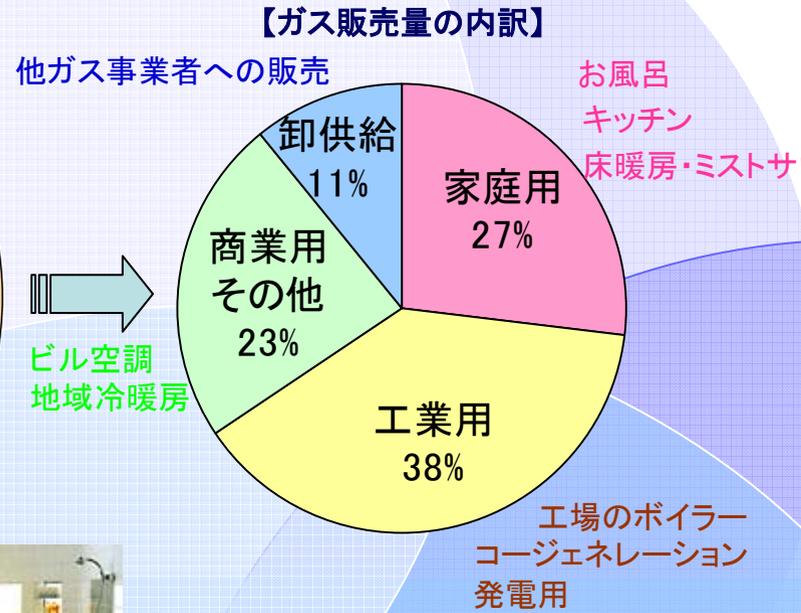
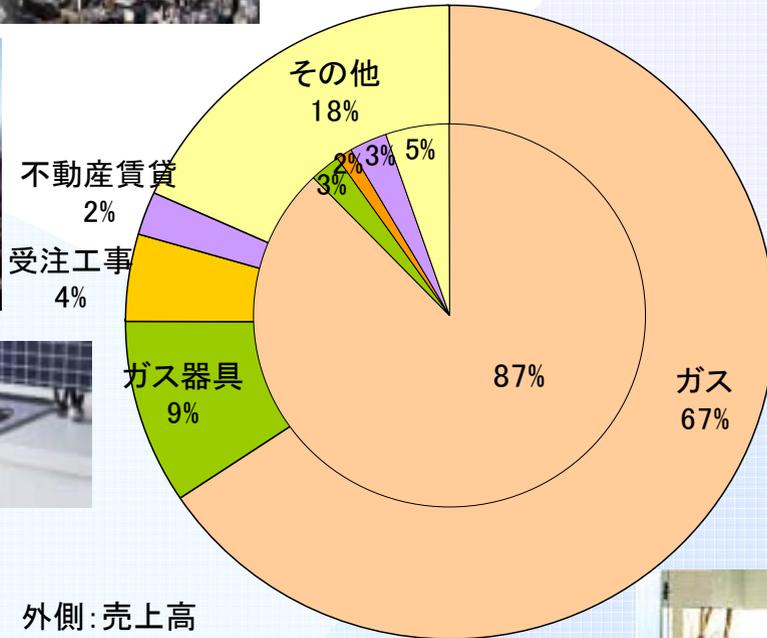
実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替相場、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

東京ガスってどんな会社？



東京ガスの事業概要

-2005年度実績-
 連結売上高 1兆2,665億円
 連結営業利益 1,123億円
 連結ガス販売量 132億m³

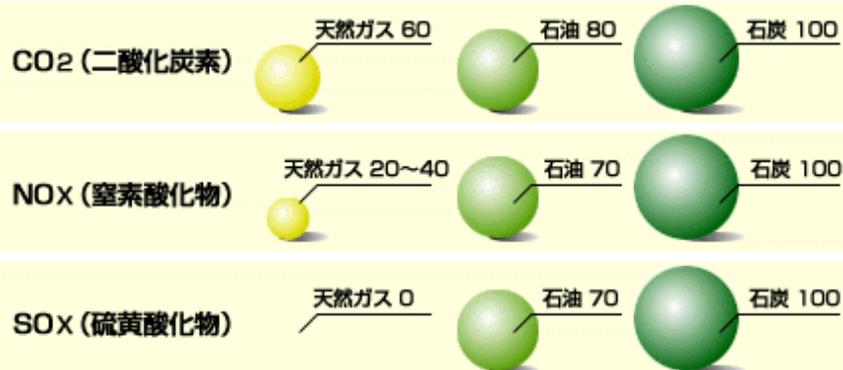


商品は環境にやさしい天然ガス

都市ガスの主原料は
LNG（液化天然ガス）
天然ガスを-162℃で
液化させ、世界各地から
船で日本まで運んでいます



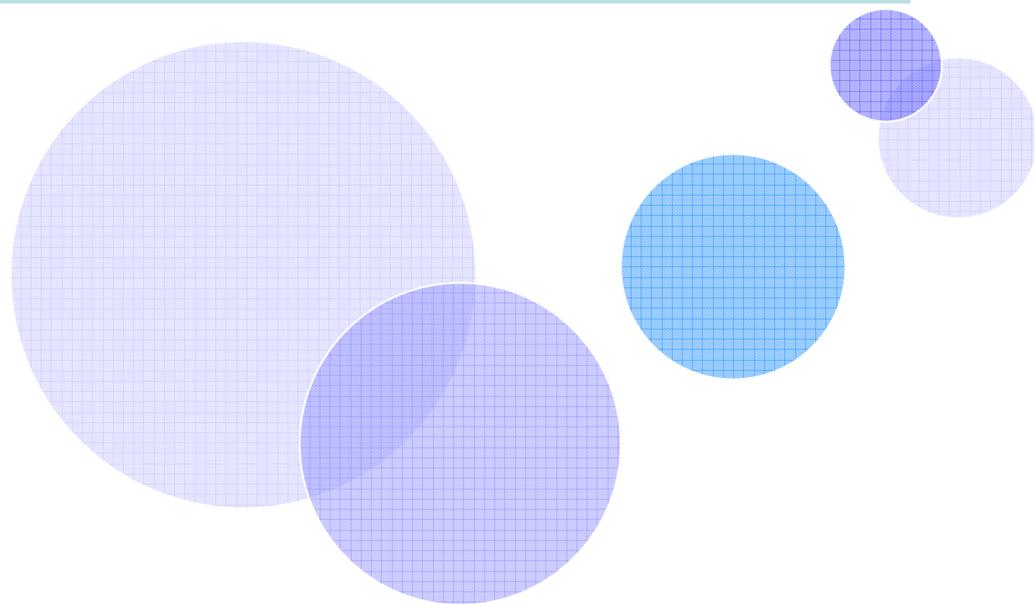
石炭を100とした場合の排出量比較（燃料時）



天然ガスを商品とする東京ガスは、
天然ガスの普及拡大＝事業活動そのもの
が環境活動だと考えています

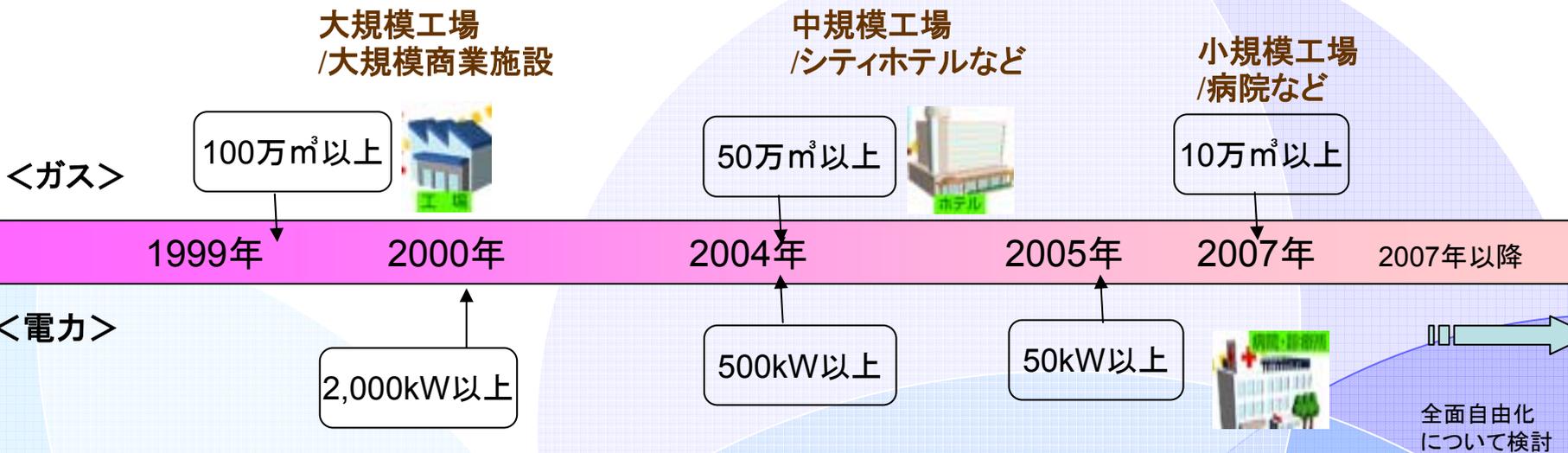
出典：IEA Natural Gas Prospects(1986), Natural Gas Prospects Policies(1991)

東京ガスの経営戦略



規制緩和の進展と競合状況

規制緩和により誰でもガスや電力を売ることができる時代へ



さまざまな競合の中で選ばれ続ける東京ガスであるために...

激しさを
増す競合

ガスVS電気

ガスVS石油

ガスVSガス

電気VS電気

天然ガス
への期待

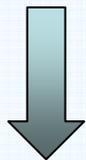
東京ガスグループが目指す姿

● 経営理念

東京ガスグループは、天然ガスを中心とした「エネルギーフロンティア企業グループ」として、「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献し、お客さま、株主の皆さま、社会から常に信頼を得て発展し続けていく。

▶ 東京ガスグループが2010年代に目指す姿

「天然ガス新市場の創造と開拓」を通してエネルギー分野において幅広い収益基盤を持つ事業構造を確立し、高い競争優位性に基づく収益力・成長力の高い企業グループを目指す

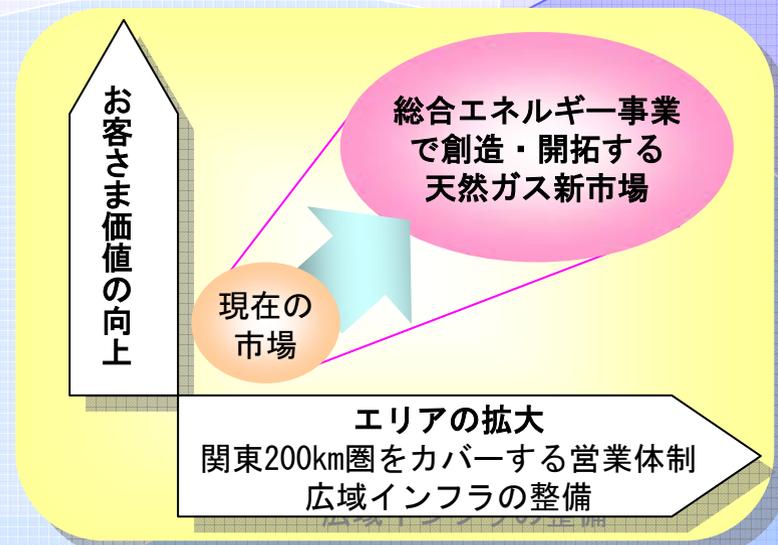


2010年代を見据えた
長期戦略の重要なステップとして

▶ 2006年度～2010年度中期経営計画

“天然ガス新市場の創造と開拓”

経営資源の集中・積極的な投資



期待を超える価値の創造を(家庭用分野)

生活のあらゆるシーンで
ガスだからこそ実現できる上質な暮らしを提案

■東京ガスの強み

- ・約900万件のお客様との信頼の絆
- ・お客様のニーズにあった魅力ある商品開発



都市ガスを使って電気と
お湯を作るんだよ



水素と酸素を
反応させて
クリーン発電

マイホーム発電の進化形

燃料電池ライフエル

LIFUEL

発電エンジンの
排熱を
有効利用

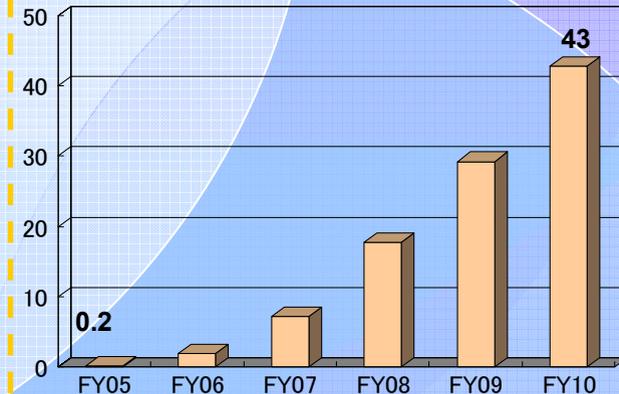
電気もつくれる給湯器

エコウィル

ECO-WILL



【マイホーム発電普及目標】(単位:千台)



炎のある上質な暮らしを提案

～exe～最高級の安全性と
最高級の機能を追及する方に



ピピッとコンロ exe(エグゼ)

安全性を追求。
シンプルな操作は高齢者にもおすすめ



ピピッとコンロ セイフル

シンプル＆ナチュラルなインテリアコンロ



ピピッとコンロ ボヌール



この後のクッキング体験で
ピピッとコンロの使いやすさを
体感してください♪

期待を超える価値の創造を(工業用/商業用分野)

付加価値の高いサービスでお客様のメリットを追及

■東京ガスの強み

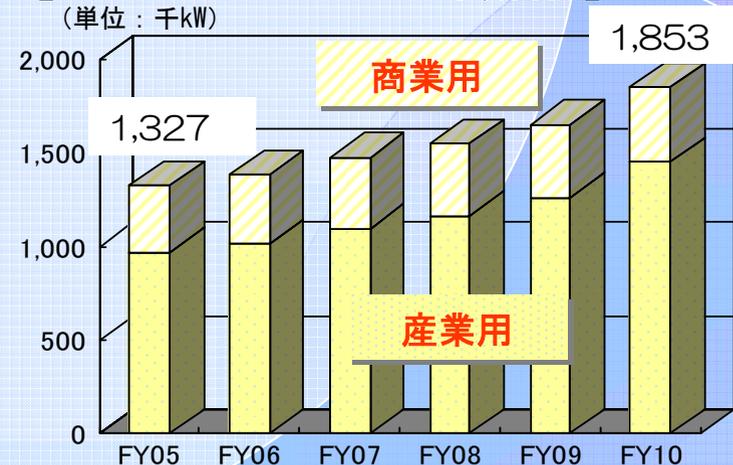
- ・環境にやさしい天然ガスコージェネレーションを武器とした強力な営業
- ・高い技術力とエンジニアリング力

[天然ガスコージェネレーションシステム]



都市ガスをエネルギー源として、
電気と熱を同時に取り出せるシステム。
省エネルギーで経済的、環境に貢献する
システムとしてますます期待が高まっています！

【コージェネレーション普及目標】



関東200km圏を越える市場へ



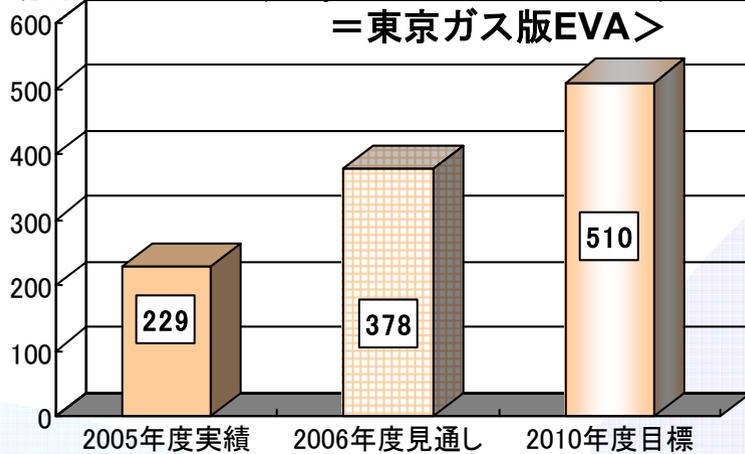
凡例

- 当社高圧幹線
- 他社パイプライン
- 当社グループ
(06.4千葉ガスへ譲渡予定の四街道市営ガス含む)
- 卸・再卸供給先ガス事業者
- その他ガス事業者

中期経営計画の達成に向けて

単位：億円

＜TEP (Tokyo Gas Economic Profit)
＝東京ガス版EVA＞

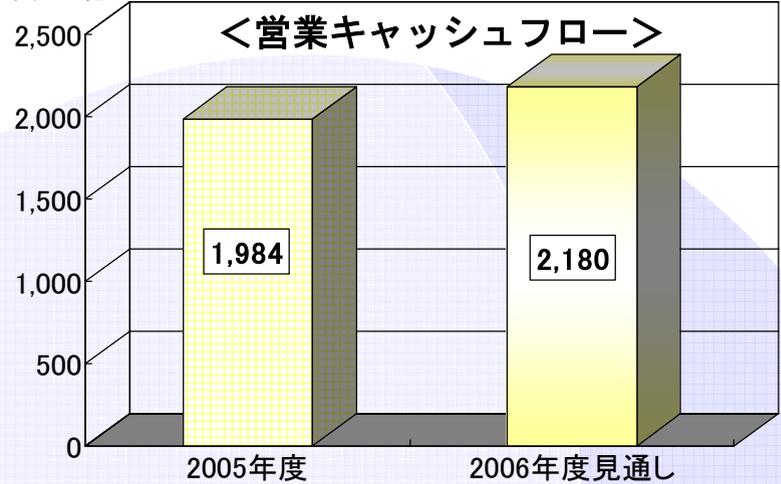


TEP＝税引き後利払前利益－資本コスト額*

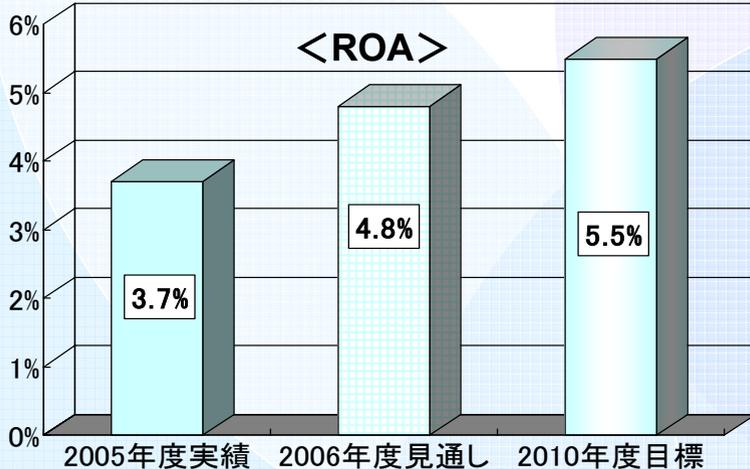
*企業が事業を行うために調達した資本にかかるコストのこと。
資本を調達するためには、株主より出資を受ける株主資本と、
債権者より調達する負債がある。

(単位：億円)

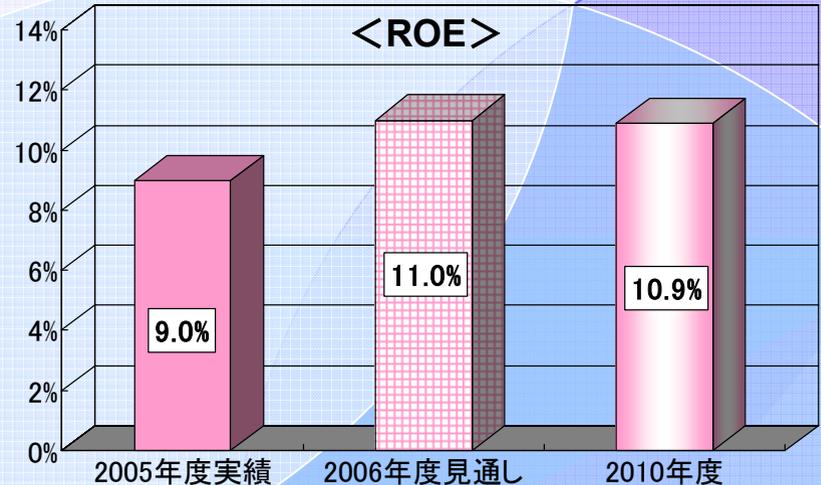
＜営業キャッシュフロー＞



営業CF＝当期純利益＋減価償却費



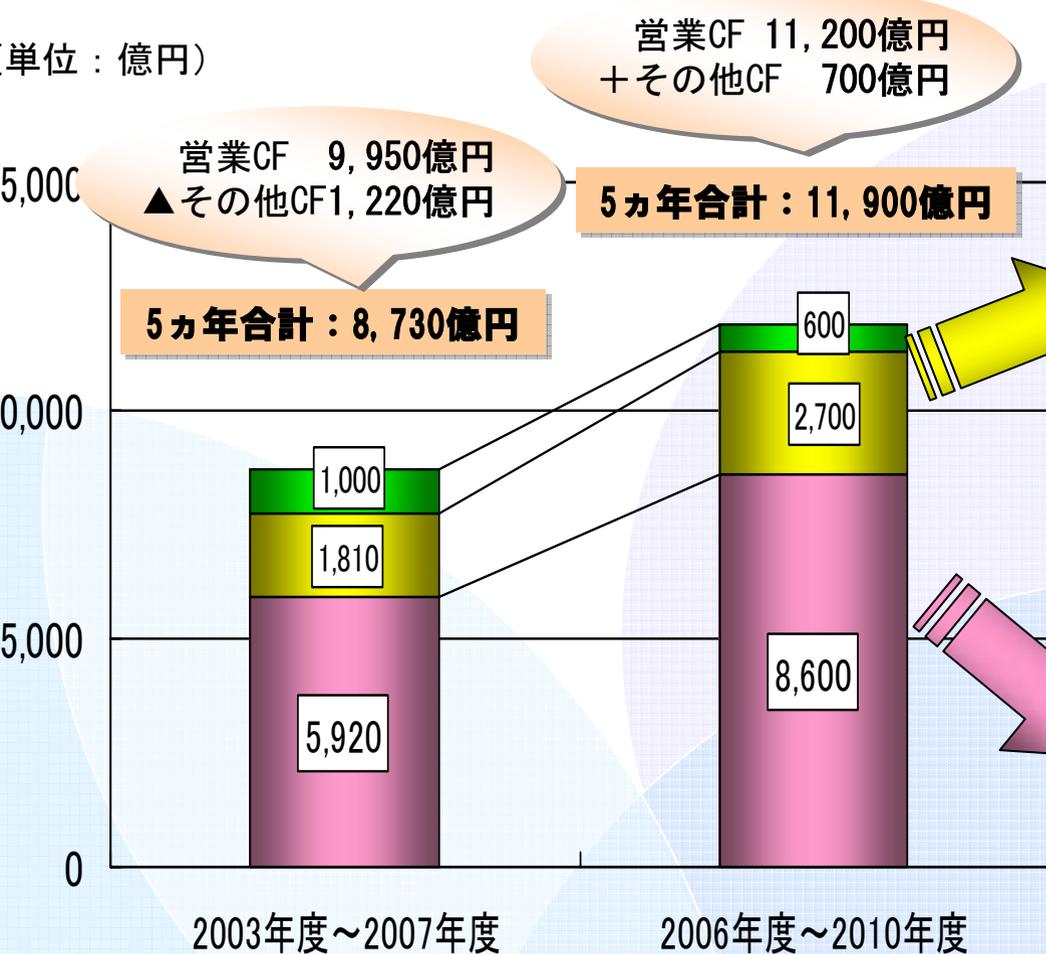
ROA＝当期純利益÷総資本（純資産）



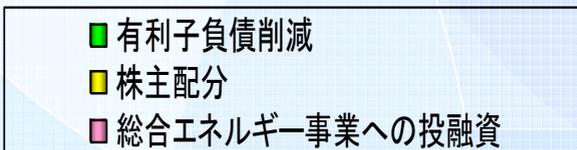
ROE＝当期純利益÷株主資本

株主配分の考え方と成長に向けた投資

単位：億円)



【参考】



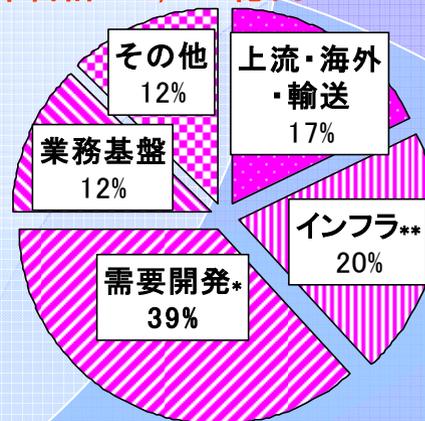
【株主配分の考え方】

総分配性向* 60%を確保

*総分配性向
= (配当 + 自社株取得) ÷ 当期純利益

【総合エネルギー事業への投融資】

5ヵ年合計：8,600億円



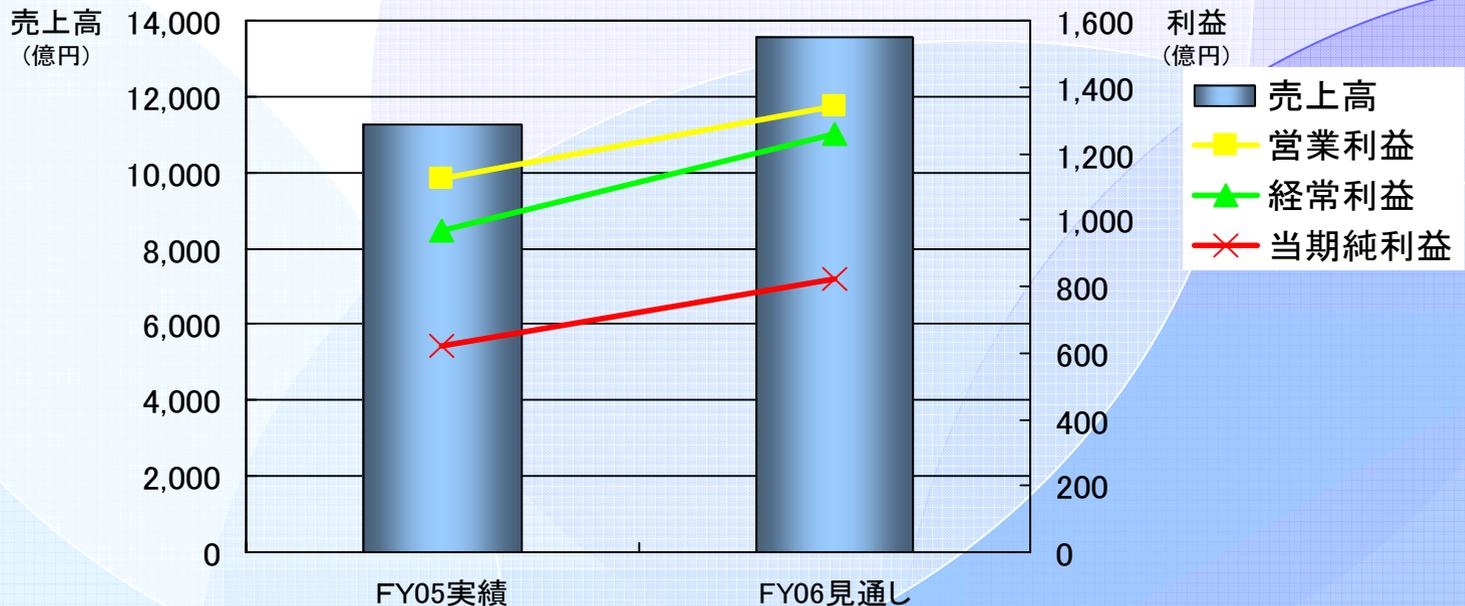
*需要開発：ガス・電力・エネルギーサービス

**インフラ：安定供給・保安

2006年度収支見通し(対前期実績)

(億円未満切捨て)

	FY05実績	FY06見通し	増減
売上高	12,665	13,700	+1,035(+8.2%)
営業利益	1,123	1,340	+217(+19.3%)
経常利益	986	1,260	+274(+27.7%)
当期純利益	621	820	+199(+32.0%)
原油(\$/bbl)	55.79	62.50	+6.71
為替(円/\$)	113.32	120.00	+6.68
気温(°C)	16.2	16.9	+0.7



お客さまや社会から選ばれ続けるために

「安全・安心・信頼」の東京ガスブランドのさらなる向上

CSR(企業の社会的責任)の深化

「日々の事業を通じて公益的使命と社会的責任を確実に果たしていくこと」を基本とし、コーポレートガバナンス・コンプライアンス・お客さま満足度向上などに取り組む

ステークホルダーとのパートナーシップ

- ・ 信頼され、期待される「パートナー」としての関係づくり
- ・ 積極的なコミュニケーションの推進

環境経営のトップランナー

- ・ 環境性に優れた天然ガスの利用促進
- ・ 環境負荷の小さいガス機器の開発
- ・ 環境コミュニケーション活動の推進



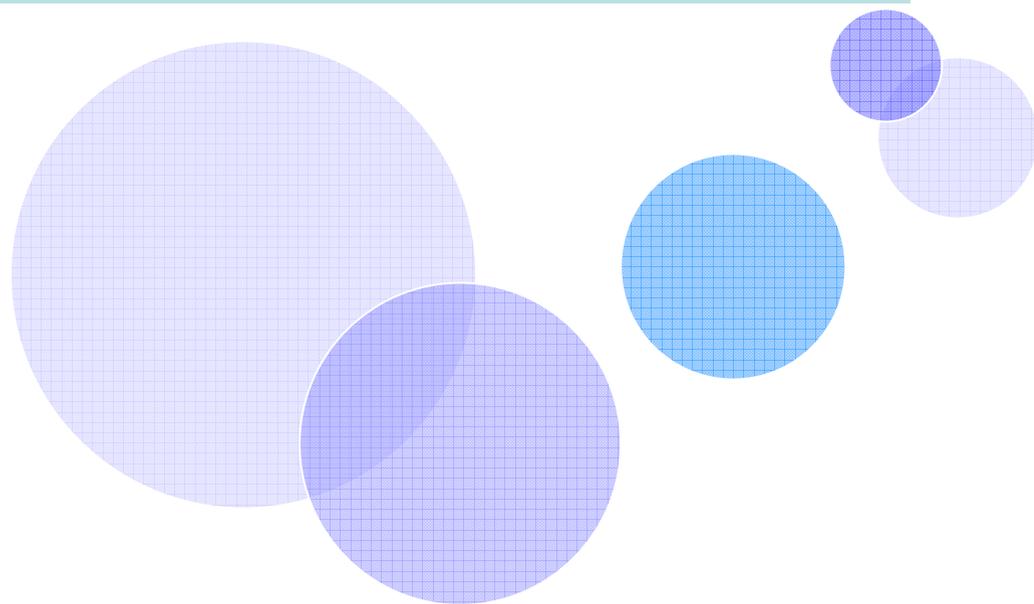
さらなる保安の向上・防災対策の強化

- ・ 迅速かつ確実な対応による保安レベルの一層の向上
- ・ 最高水準の地震防災体制の維持

リスクマネジメントのさらなる強化

- ・ グループ全体のリスクマネジメント
- ・ 内部統制システムの整備

参考資料



東京ガス株式情報

＜株式情報＞

証券コード: 9531

株価: 558円(5月31日現在)

年間配当金: 7円/株

配当利回り: 1.25%

単元株: 1000株

決算期: 3月末

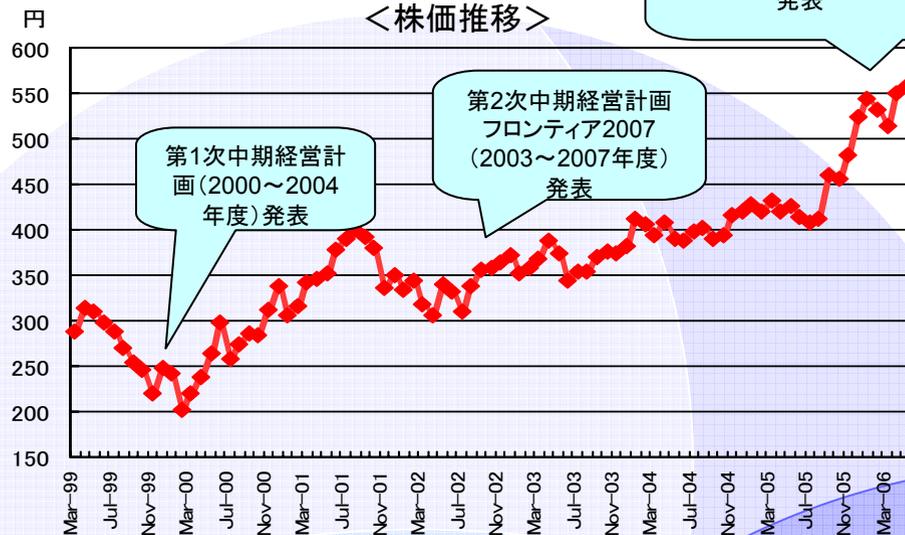
*株主優待制度はありません

東京ガスIRホームページはこちら

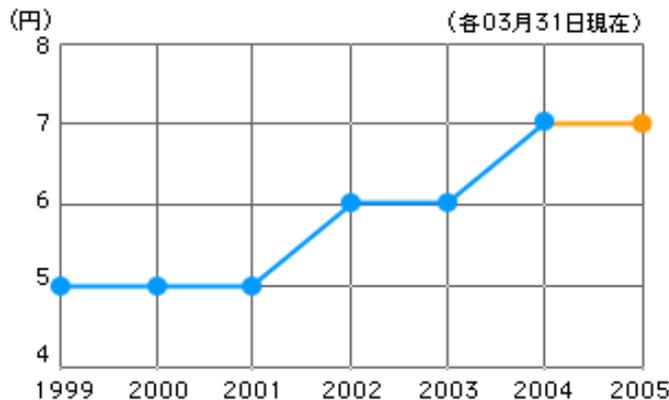
http://www.tokyo-gas.co.jp/IR/ir_j.html



＜株価推移＞



配当の推移



主要諸計数(連結)

	2004年度実績	2005年度実績	2006年度見通し
都市ガス販売量(45MJ/m ³)	122億m ³	131億m ³	132億m ³
総売上高	11,907億円	12,665億円	13,700億円
営業利益	1,453億円	1,123億円	1,340億円
経常利益	1,328億円	986億円	1,260億円
当期純利益	840億円	621億円	820億円
総資産	16,687億円	16,938億円	16,970億円
有利子負債残高	6,241億円	5,599億円	5,700億円
株主資本比率	38.9%	43.0%	45.1%
ROA(総資本利益率)	5.0%	3.7%	4.8%
ROE(株主資本利益率)	13.5%	9.0%	11.0%
EPS(1株あたり利益)	31.47円	23.48円	30.46円
BPS(1株あたり株主資本)	244.73円	270.46円	284.51円

リスク情報

●原油価格・外国為替変動リスク

東京ガスが供給する都市ガスの主要原料であるLNG(液化天然ガス)は海外から輸入しており、ドル建の売買契約になっているため、円/ドル為替の変動リスクを受けます。また、ドル建てのLNG価格は原油価格にスライドして決定されるため、原料価格相場の変動リスクも受けます。

それぞれの変動が年間の原料費に与える影響額は次のとおりです。

- ・為替の1円/ドルの変動→約25億円
- ・原油価格の1ドル/バレルの変動→約40億円

ただし、上記の変動は「原料費調整制度」(原料費が変動しても変動分については、約6か月遅れでガス料金に反映する制度)が適用されているため、年度を区切ると回収超過や回収不足が発生しますが、中長期的には収支への影響は軽微です。

●金利変動リスク

東京ガスの有利子負債は、長期・短期ともに固定金利であるため、借入期間中の金利変動リスクはありません。

しかし、借換時等においては金利変動のリスクを受ける可能性があります。

●株価変動リスク

東京ガスの保有する株式は、業務上必要な企業との関係を維持するためのものが大部分です。そのうちマーケットリスクにさらされる可能性があるのは、上場株式の株価です。これら株式の扱いについては、運営方針と管理規則を設けています。

●競争リスク

規制緩和の進展に伴ってエネルギー間の競争が激化するなか、顧客維持・獲得のために、ガス料金が低下するリスクが考えられます。今後も競争状況を見ながら、戦略的な料金戦略を考えていきます。

*その他のリスク情報については有価証券報告書(HPに掲載)で開示しております。2